

昔のきつい思い出

昔々27〜8年前、摂津峡の近くで田植えや稲刈りをした経験がある。

田植えの時や稲刈りの時は、公園や川で遊ぶのにとても気持ちの良い時。遊びに来ている人達が大声で歌う声が聞こえてきた。又お肉の焼く美味しそうな匂いも飛んできて。少しだけコンチクショウって思ったこともある。



田圃の水路では沢ガニや魚を捕まえたり、泥の中の泥鰌を探したり、秋にはイナゴ、バッタ、カマキリ、土手にはアザミや彼岸花が燃えるように咲いていた。

私たち大人4人で腰を屈めながら手で苗を植えている時、隣の田圃へ2条植えの機械を



持って来た男性が、あれよあれよと言っている間に泥田に苗が植わっていた。我が家の4人、疲れがどつと腰に来た。

平成22年9月18日、機械化が進んでも四角い田圃の四角を手で稲を刈る女性の姿があった。夫や孫に囲まれてこの女性コンチクショウや疲れも感じないのではないかと。

E・H



また行きたい

英国の旅！！

少し前の事ですが、イギリスのオックスフォードで仕事をしていた娘を訪ねました。12時間の空の旅を終えて、ヒースロー空港に到着。

遠い異国の地なのに、治安も良くて、雰囲気は日本とあまり変わらず一安心。

出迎えてくれた娘と合流して、空港からバスで50分、オックスフォードは、中世の煉瓦造りの45のカレッジ、教会、図書館、ホールを中心とした落ち着いた風格ある街です。

その中でも最も大きなカレッジ、"クライスト・チャーチ

"は「ハリーポッター」の撮影地であり、「不思議の国のアリス」の作者ルイス・キャロ

ルゆかりの地として有名な観光地ですが、ヘンリー8世が創設し16世紀来の歴史を持つ荘厳な建物群は今も学生、聖職者の勉学、生活の場として使われています。

後日、オックスフォードから

列車、バスを乗り継いで二時間、ウイリアム・モリスが「イングランドで一番美しい村」と称えたコッツウォルズ地方のバイブリー村へ。

14世紀に建てられた石造りの「はちみつ色の家」が連なり、傍を流れる小川には白鳥やカモが泳ぐ田園風景が広がります。



そして16世紀に建てられた領主の館だったマ

ナーハウス（ホテル）に泊まり、ちよつとしたお姫様気分を味わいましたが、迷路のような古城の夜は、おどろおどろしくもありました・・・後はせっかくだからとロンドンをウロウロとして、博物館やバッキンガム宮殿やビッグベンも見物、地下鉄でダウンタウンにも行ってきました。

ここまで来て、何をわざわざと思いつつも日本料理店に

も行きました（笑）

娘が部屋を借りている家主のご夫婦は、イースターのバカンスに出掛けていて会えなかったのですが、私に歓迎のメッセージと壺いっぱいのお庭の切り花を入口に置いて行ってくれました。

白いペンキでドアや窓枠を何度も塗り直して丁寧に使ってくださった家々と、この心温まる歓迎に、イギリス人気質の様なものを垣間見た気がしました。

短い滞在でしたが、イギリスの人達は、とてもフレンドリーで、分かり易い綺麗な英語で話してくれました。

“thank you.” “sorry.” “please.” の三語と片言英語を駆使して、プラス”度胸？”で楽しいイギリスの旅を終えました。

K・T



オックスフォードの街角